



# 謹賀新年

ゴールができてタッチ (サッカースポーツ少年団)



市長  
池本正夫

## 基盤整備に全力

市民のみなさま、明けましてめでたくございます。新年を迎えるにあたり、みなさまのご繁栄と健康を心からお祈り申し上げます。早いもので、昨年の十二月に第九代宇治市長に就任いたしました。一年が過ぎました。私は、清麗にして活力のある宇治市の実現を自覚し、市民本位の市政を基本に、過去の急激な都市化によって生じた諸問題ととりわけ、財政再建、立ち遅れている都市基盤の整備と市民サービスの向上にこの一年間、力を注いでまいりました。お蔭さまで、議会をはじめ市民各位のご協力により、相当の進展をみるごことができました。今日の情勢は誠に厳しいものがありますが、私は市政の責任者として、市政の展望を

的雁とらえ、英知を絞り、勇気をもって行財政の効率化に努め、多様化する市民要望にこたえる決意をするものであります。今年、宇治市は、懸案の総合福祉会館・市民文化センター・国鉄宇治駅前ひろば・観光センター等の都市施設が翌年度より着手されてきます。また、市民待望の府立山城総合運動公園・太陽が丘が一部開園され、市政発展の基盤整備が大きく前進する年であります。市政をとりまく多くの課題の解決には、曲折も予想されますが、希望と信念をもって市民のみなさんとともに、汗を流してまいりたいと存じます。本年も、みなさんの一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。



市議会議長  
野口一美

## 民意を議会に反映

市民のみなさま、明けましてめでたくございます。輝かしい昭和五十七年の年頭にあたり、宇治市議会を代表して、謹んで市民のみなさまのご多幸とご繁栄を心からお喜び申し上げます。ご承知のちに、昨年本市にあっては、市民のための都市基盤整備を基調とした公共

下水道事業、道路建設、国鉄宇治駅前整備、さらには、地区公民館をはじめとする社会教育施設の諸事業が推進されました。これは、ひとえに市民各位のご協力とご支援の賜ものであり、ここに感謝を申し上げます。本年も、市民のみなさま方の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

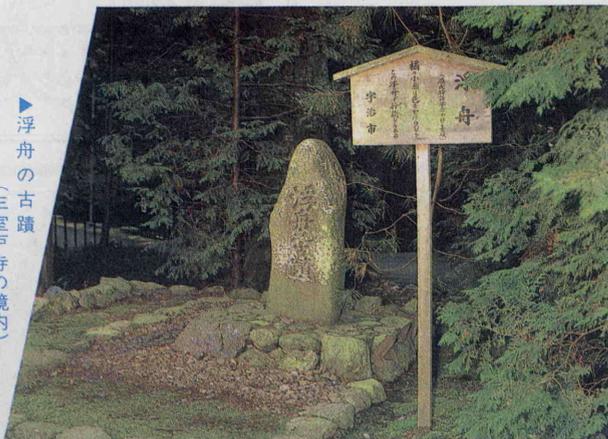
## 年頭のごあいさつ

図り、都市開発・生活環境の整備改善を推進する上で、なお重要問題が山積しております。その解決を図ることが、われわれに課せられた責務であり、国及び府の施策と相まって、市の諸施策が最大の効果を上げるよう慎重に審議し、宇治市発展と市民生活向上のために、精一杯の努力を傾注する所存であります。さらに、私たち議会といたしましては、地方自治の本旨に基づき、市民のみなさま方のご意見、ご要望を反映し、市民各位の期待にこたえる一層努力をこらう所存であります。

# またねて

な歴史のまちです。正月三日にはまちも静かなたたず  
 治の里。にもどります。宇治は源氏物語だけでなく、万  
 など多くの文学の舞台となっています。私たちのまち  
 残した文化的遺産があります。お正月休みに、日ごろ願  
 ん、古典文学の旧蹟をめくりながら振り返ってみてはいか

▶浮舟の古蹟  
 (三室戸寺の境内)



紫式部の『源氏物語』は日本文  
 学の最高峰とされ、その終わり十帖は宇治が舞台となっ  
 ており、宇治十帖と呼ばれてい  
 ます。薫大将の失意を中心に、趣  
 深い物語が繰りひろげられていま  
 す。



▲駒足跡碑(五ヶ庄西浦)

全国に誇る宇治茶は十三世紀の  
 終わりに、梅尾高山寺の明恵上  
 人が宇治の里にも茶種をまいたこ  
 とにはじまります。

万福寺の門前に駒足跡碑があり、  
 「都賀山の尾上の茶の木分け種ま  
 てあとぞ生ふべし駒の足跡」と明  
 恵上人が歌で、馬のひずめあとに  
 茶の種をまくことを教えたと言わ  
 れています。

万福寺の三門横には、菊舎の有  
 名な句「山門を出ば日本ぞ茶摘う  
 た」の碑があります。

▲菊舎の句碑(万福寺の三門横)

近世になると俳句が盛んになっ  
 てきます。松尾芭蕉の「山吹や宇  
 治の櫛の句ふ時」というよく知  
 られた句があり、三室戸寺の境内  
 に句碑が建てられています。

また、橋寺は宇治橋架橋の由来  
 を記した「断碑」で有名ですが、  
 この橋寺の境内にも芭蕉の句碑が  
 あります。「木隠れて茶摘も聞く  
 やほととぎす」この句碑の文字は  
 芭蕉の直筆であろうと、寺の人が  
 言われています。

▶芭蕉の句碑(橋寺の境内)





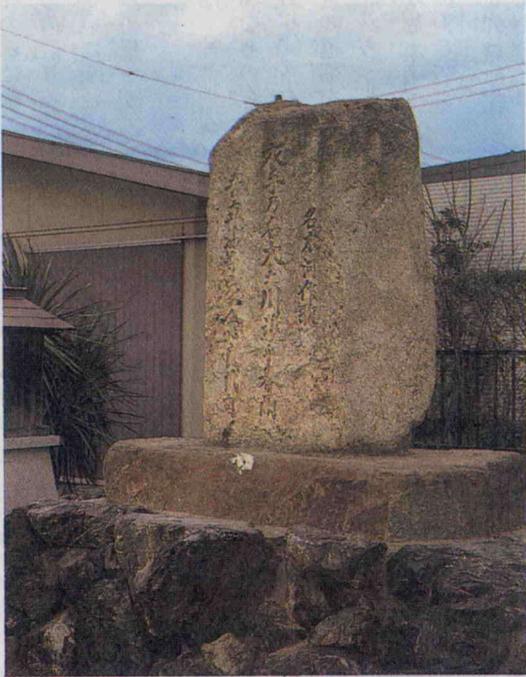
# 新春に

# 古典文学

私たちのまち——宇治は、豊かなまいを見せ、むかしながらの「宇葉集や古今集の和歌、軍記、俳句」宇治には、このように先人たちの「みることの少ないふるさと宇治をがでしよう。

◀朝日の昇る宇治川（朝霧橋から）

正月に楽しむ小倉百人一首には、宇治の風物も詠まれています。「朝ぼらけ宇治の川霧たえだえにあらわれ渡る瀬々のあじろ木」と藤原定頼が詠じ、また「わが庵は都の巽鹿ぞ住む世をうち山と人はいふなり」と喜撰法師も歌っています。せめて、この二枚のかるた札だけは、市民のみなさんにも取っていただきたいものです。さらに古い時代には、柿本人麻呂の「ものふのやそうち河の網代木にいざよう波の行方知らず」の歌が万葉集にあり、宇治川を中心とする宇治の里は、むかしから山紫水明の地といえます。



▲柿本人麻呂の歌碑（伊勢田町砂田）

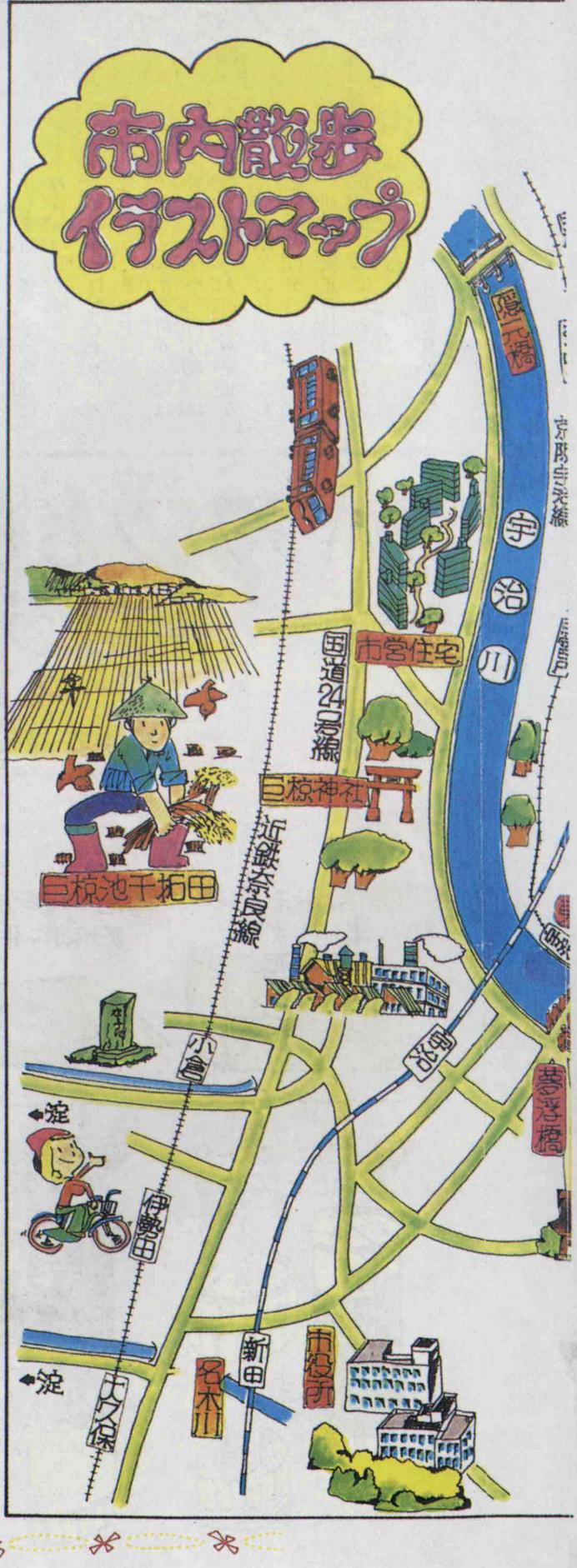
宇治川周辺ばかりでなく西宇治方面でも、和歌などを通して古い時代をしのぶことができます。万葉集には宇治川ばかりでなく名木川も登場し、現在伊勢田町の公園に万葉仮名で彫られた歌碑が建てられています。「衣手の名木の川辺を春雨に吾立ち濡ると家思ふらむか」と柿本人麻呂によって歌われた名木川は、広野の山間部から流れ出し、伊勢田の西側を北流し、巨椋池に流れ込んでいたようです。現在では、伊勢田町名木にその名が残っています。また、伊勢田小学校の中庭にも柿本人麻呂の同じ和歌の碑があります。



◀頼政の扇の芝（平等院の境内）

宇治の地も中世になると宇治川は源平の合戦場となり、『平家物語』には、七十六歳になる源三位頼政が平家の追討軍と宇治橋で戦い、敗れて自刃する「橋合戦」が描かれています。頼政が軍扇の上で自害したと

ころとされる「扇の芝」が、平等院の中にあります。そこには、頼政の辞世の歌「埋木の花咲くこともなかりしに身のなるはてぞ哀れなりける」や、後世の江戸時代末に建てられた歌碑などもあります。



新春こどもコーナー

ふるさとむかし話

初あがたのにぎわい

宇治の県神社では、毎年正月五日に「初あがた祭」が行われていきます。この日に県神社へ参拝する人は、いまでも多く、境内には何軒かの露店が並んで、お正月らしい気配がただよっています。

でも、それは、むかしのにぎわいには比べようもありません。近くに住んでいるおばあさんが、むかしの「初あがた祭」のにぎわいぶりを、いろいろ話してくださいました。



初あがたの日には、古くから河内（大阪府）の村々の人たちが、はだか米俵をかついできて、県神社に奉納するならわしがありました。それはたいへん威勢のよいものだったそうです。その人たちは六月五日に行われる「あがた祭」のときにもやってきて、梵天の渡御に奉仕しました。それはいまでもつつげられて

行われたそうです。県神社の境内では、神楽や謡曲・狂言・浄瑠璃などの音曲や相撲の奉納があり、多くの露店が境内や付近の道端を埋め、なかにはサーカス・芝居・見せ物などの小屋もあって、参拝の人たちを呼びこんでいました。お茶を売る店や料理飲食店では、福引付き大売出しを行って、宇治駅前にその景品の引換所をつくり、宇治のおみやげなどを渡していたということです。

そのころ宇治の町かどには伊勢の太神楽や三河万歳、越後獅子などの大道芸を見せる人たちが来ており、あちこちに見物の人垣ができていました。明治・大正時代の宇治のお正月がしのばれる、のどかなお話ですね。

（歴史資料室）

パクパクおしして遊ぼう



- 〈用意するもの〉 ●スーパーの紙袋 ●画用紙 ●クレヨンかフェルトペン ●のり(接着剤) ●はさみ ●ポテチチップなどの円筒形の紙箱 ●かみ ●割りばし ●輪ゴム ●布ぎれ ●セロファンテープ

〈パクパクおししの作り方〉

① 幅のせまい方を上にします

② 底の部分を内側に折る

③ ②のAの部分を閉き歯と口をかく

④ ②の形をもどし目鼻などをかく

⑤ 袋に手を入れパクパクさせる

① 図のようにカッターでAとBを切りとる

② 画用紙におししの顔をかき切りぬく

③ 図のように割りばしを輪ゴムでゆわえる

④ 割りばしのはしに上あご下あごを箱の底の部分を利用して接着する布をかぶせて割りばしのはしをにぎったりもどしたりするとおししの口がパクパクする